三勲小だより

令和３年３月４日（木）

＜全校朝会の話（校内放送）＞

すぐ近くに電車が通っている京橋という橋があります。この橋の近くにこんな石の碑が建てられていて「世界で初めて空を飛んだ表具師 幸吉の碑」と書かれています。（石碑の写真）

飛行機もない昔から人々は鳥のように空を自由に飛びたいと思っていました。今から約２４０年前、まだ世界中の誰もが空を飛んだことのない時に、岡山に、鳥のように空を飛ぶことに憧れ、飛ぶ実験を行った人がいました。その人の名前は浮田幸吉と言います。幸吉は表具師と言ってふすまや障子を紙で張り替える仕事をしていました。幸吉は仕事の合間にはよく近くのお寺に行って休んでいました。そこで、ハトやスズメを見ていた幸吉は「鳥のように翼があれば人間でも空を飛べるのではないか。」と思いつきました。そして、まず、大空を舞うタカやトンビの飛び方を観察しました。次に、見るだけでなくお寺でハトを捕まえて羽の長さや身体の重さを測りました。また、鳥の飛ぶ仕組みを調べたり人間の身体と比べたりするには数学（皆さんで言うと算数）の勉強が必要だと考えて、自分で数学の本を買って勉強をしました。表具師としての仕事も頑張っていて、その腕前は６年生が能を行った後楽園のふすまの張り替えを頼まれるほどでした。幸吉はこの仕事で覚えた技術を生かして、太い竹で骨組みを作り、紙や布を張って大きな人間用の翼を作ったのです。そして尾翼（鳥の尻尾にあたる部分）や胴体も作り、方向を変えたり翼を動かしたりできるようにしました（組み立てた翼の写真）。そして、何度も何度も作り替え、走って浮き上がる練習を繰り返しました。

そんなある日、幸吉がたまたま京橋を渡っていると京橋の下から風が吹き上げてきました。紙切れを飛ばしてみると風に乗って遠くまで飛んで行きました。幸吉は「ここから飛べば風に乗れる！」と思いつきました。でもすぐには飛びません。仕事の帰りなどに京橋を渡って風の吹き方を調べて、一番いい風が吹くのは夕方、飛び立つのは南の橋の上がいいということが分かりました。そして、今から２３６年前の８月、幸吉は京橋で飛ぶ準備をしました。身体に翼を付けて風が吹くのを待ちました。そして下から吹いてきた風に合わせて橋を蹴って空中に舞い上がりました。白い翼を付けた幸吉はなんと、３０メートルも飛んだのです。これが世界で初めて人が空を飛んだ瞬間でした。初めて人が空を飛んでいるのを見た人たちは「白い羽を付けた天狗が空を飛び回っている！」と大騒ぎしたそうです。（幸吉が飛んでいる絵）

近くに世界初のこんな素晴らしいことを成し遂げた人がいたのですね。幸吉が世界で誰もできないことをしたのは、空を飛びたいという夢をもち続け、思うだけでなくどうやったらできるか考え、そのための勉強をし、工夫を重ね、失敗しても何度もチャレンジしたからだと校長先生は思います。

さて、今の学年・学級もあと１ヶ月で終わりです。担任の先生と一緒に、学年の最初や１月に立てた学年や学級・自分のめあてを振り返り、残りの１ヶ月をどのように過ごせばよいかを考えましょう。幸吉のようにこうなりたいと思ったら、それに向けて勉強を頑張ることやよく考えること、そして、よいと思ったことは思い切って行動に移してみましょう。できなかったことがきっとできるようになっていると思います。また、今日のお話は幸吉が一人で頑張っていましたが、学校では一人で頑張るのはもちろん、みんなで頑張ることもたくさんあります。一人一人が自分の力を出し切り、友達と助け合ったり励まし合ったり仲よくしたりして、最後の日を笑顔で迎えてほしいと思います。

今日は今年度最後の全校朝会で、校長先生のお話も今日で最後です。いろいろなお話をしましたが、皆さんがいつかお話を思い出して元気になったり頑張ろうと思ったりするなど、何かの形で皆さんの人生の助けになることができたらうれしいなと思っています。今まで一生懸命聞いてくれてありがとう。